



いきいきコラム

100回を迎えて

平成16年5月1日から始まったこのコラムも、とうとう100回を迎えました。

この8年半の間に、日本の社会情勢は出生率の低下と急激な高齢化、単身世帯やひとり親家庭の増加、地域社会における人間関係の希薄化が進むなどの変化がありました。また、長期的な景気低迷などにより失業者や非正規労働者が増え、未婚率の上昇や家庭の経済状況による子どもの教育・学習の機会剥奪など、貧困の連鎖といった問題も顕著化しています。

こうした社会情勢の変化に応じて問題を解決していくためには、女性をはじめとする多様な人材の活用による経済の活性化が必要となっています。また、地域の力を高めていくため、誰もが地域活動などに参加できる地域社会を形成していくことが重要です。このため、国や地方公共団体などの政策決定プロセスや地域における意思決定システムのの中に女性の参画を促進す

るとともに、特定の者に偏って担われている活動などに対して、多種多様な人材の参画が今後ますます求められます。

毎年11月12日から25日までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」実施週間です。

配偶者などからの暴力、性犯罪、売買春、セクシユアルハラメント、ストーカー行為や人身取り引きなど、女性に対する暴力は女性の人権を侵害するものであり、決して許される行為ではありません。

早めの相談が問題解決への第一歩です。一人で悩まず、まずは電話してください。

岐阜県女性相談センター・
配偶者暴力相談支援センター

☎058-274-7377
月～金曜日

午前9時～午後9時
土・日曜日、祝日
午前9時～午後5時



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



形成外科の紹介

形成外科部長

中屋敷典久 医師

皆さんこんにちは。土岐市立総合病院形成外科の中屋敷です。今回は、私の診療科についてご紹介いたします。

日本に形成外科が登場して半世紀になります。現在、全国のはとんどの基幹病院には専門医が配置されています。それにもかかわらず、「形成外科という科は何をやっているのですか？」という質問が寄せられることがあります。

りが生じることもあるため、「この科は何をやっているのですか？」との声につながるのかもしれない。形成外科の診療領域については、学会のインターネットホームページ (<http://www.jsprs.or.jp/general/>)でも紹介しておりますので、一度ご覧ください。

形成外科では、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して治療を行っています。治療にはあらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能だけでなく形態的にもより正常に、より美しくすることが求められます。形成外科は、皆さんの生活の質“Quality of Life”の向上を目指す専門領域です。

土岐市立総合病院の形成外科の診察室は、玄関から左に入り一番奥の右手にあります。私はここで診察、処置、手術を日々行っております。当科ではオールラウンドに診療を行うことを心掛けており、昨年は入院手術91件を含め300件以上の患者さんを手術した実績があります。

具体的には、外傷、熱傷、先天奇形、皮膚腫瘍、褥瘡、美容などがありますが、施設によって得意とする内容に偏

小さなことでも気になることがありましたら、一度ご相談いただければ幸いです。診察室でお待ちしております。